

V 調査研究・技術開発

1 研究企画事業

(1) 機関評価

試験研究機関の役割と取り組むべき試験研究等の業務を明確にし、それらを効率的に進めるための方策を示している中期運営計画に基づく年度毎の実施計画の達成状況等を評価し、業務の質の向上と効率化を進め、活動の水準を高めるために実施している。

ア 評価の概要

評価は、県内部の委員7名構成の事業検討会議（平成27年6月19日開催）で自己評価を実施後、学識経験者等委員7名構成の評価委員会（平成27年7月2日開催）の場でなされた。

（評価結果）

| 評 価 項 目 | | 評 価 |
|----------------------------|----------------------------------|-----|
| i) 県民に対して提供する業務 | 1) 試験研究 | A |
| | ①植物プランクトンの群集構造に影響する環境因子の解明に関する研究 | |
| | ②北浦（銚田川流域）の蓄積窒素に関する研究 | |
| | ③PM2.5成分分析調査 | |
| | 2) 事案対応 | AA |
| ii) 業務の質的向上, 効率化のために実施する方策 | 3) 環境学習, 市民活動との連携・支援等 | A |
| | 4) 広報・情報発信 | AA |
| | 1) 全体マネジメント | A |
| | 2) 他機関との連携 | A |
| | 3) 外部資金の獲得方針 | A |
| | 4) 県民ニーズの把握 | A |
| | 5) 内部人材育成 | A |
| | 6) 研究評価 | A |

評 価（4段階）

AA：質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現

A：質・量の両面において概ね計画を達成

B：質・量のどちらか一方において計画を未達

C：質・量の両面において大幅に未達

イ 評価委員会委員 7名 ◎：委員長

| | | |
|------|--------|-----------------------------------|
| 専門委員 | ◎天野 一男 | 茨城大学名誉教授 |
| | 福島 武彦 | 筑波大学大学院生命環境科学科教授 |
| | 内海 真生 | 筑波大学大学院生命環境科学科准教授 |
| | 大原 利真 | (独)国立環境研究所企画部フェロー |
| | 多木 洋一 | 茨城県生活環境部次長 |
| 共通委員 | 佐久間正敏 | 茨城県企画部理事兼科学技術振興監 |
| | 池上 敬一 | 産業技術総合研究所イノベーション推進本部 地域連携推進部次長 |

(2) 客員研究員の委嘱

ア 客員研究員制度の概要

大学や外部研究機関等から、環境科学に関する分野で専門的知識を有する研究者を客員研究員として委嘱し、研究機能の向上及び活性化並びに研究体制の充実を図ることを目的に、平成17年7月15日に客員研究員設置規程を策定した。客員研究員の職務は次のとおりである。

- ・研究職員に対する研究企画，研究手法，研究成果のとりまとめ等についての指導・助言
- ・センターにおける研究の実施
- ・その他，センターにおける研究の推進等に寄与すると認められる活動

イ 客員研究員 (H28. 3. 31 現在)

| | | |
|----------------------|------|-------|
| 筑波大学大学院生命環境科学研究科 | 教授 | 福島 武彦 |
| 筑波大学大学院生命環境科学研究科 | 教授 | 濱 健夫 |
| 茨城大学農学部 | 教授 | 黒田 久雄 |
| 茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター | 准教授 | 中里 亮治 |
| (独)国立環境研究所企画部 | フェロー | 大原 利眞 |
| 京都大学大学院人間・環境学研究科 | 教授 | 梶井 克純 |
| 浄化槽フォーラム | 理事 | 井村 正博 |

ウ 客員研究員による助言等

| 区 分 | 回数 |
|--------------------|----|
| 農業環境負荷低減に関する研究関係 | 1 |
| 霞ヶ浦の水質変動に関する調査研究関係 | 12 |
| 浄化槽処理水の水質改善関係 | 1 |
| 光化学オキシダント関係 | 2 |

(3) 研究成果発表会の開催

- ・開催日 平成27年12月17日(木)
- ・場所 センター 多目的ホール
- ・参加者 67名
- ・講演 「霞ヶ浦の水質変動について」 センター長 相崎 守弘
- ・成果発表
 - ① アオコ形成藍藻 *Microcystis* は、霞ヶ浦湖底に存在しているのか？
湖沼環境研究室 技師 長濱 祐美
 - ② ハス田からの流出負荷削減に関する調査研究
湖沼環境研究室 主任研究員 吉田 繁樹
 - ③ 茨城県における光化学オキシダントの高濃度現象に関する研究
大気・化学物質研究室 主任 前田 良彦
 - ④ 野外観察を通じた生態系の理解に基づく環境保全のための環境学習
環境活動推進課 係長 岡崎 和也
- ・ポスター発表



発表会の様子

(4) 騒音振動悪臭実務研修会の開催

- ・開催日 平成27年7月9日(木)
- ・場所 センター 多目的ホール
- ・参加者 市町村職員 41名 , 県民センター 2名 計 43名
- ・内容 騒音・悪臭等の法令解説
騒音・悪臭等の測定法の解説及び実習

(5) インターンシップ研修生の受入

研修生4名を延べ21日間, 茨城県庁インターンシップ実施要領に基づき受け入れた。

| | | | |
|--------|----|----------------------------|---------|
| 茨城大学 | 1名 | 平成27年8月25日(火)～29日(土) (5日間) | 湖沼環境研究室 |
| 茨城大学 | 1名 | 平成27年8月25日(火)～29日(土) (5日間) | 環境活動推進課 |
| 東京都市大学 | 1名 | 平成27年8月25日(火)～29日(土) (5日間) | 環境活動推進課 |
| 高崎経済大学 | 1名 | 平成27年8月25日(火)～29日(土) (5日間) | 環境活動推進課 |

(6) 外部研究員の受入れ

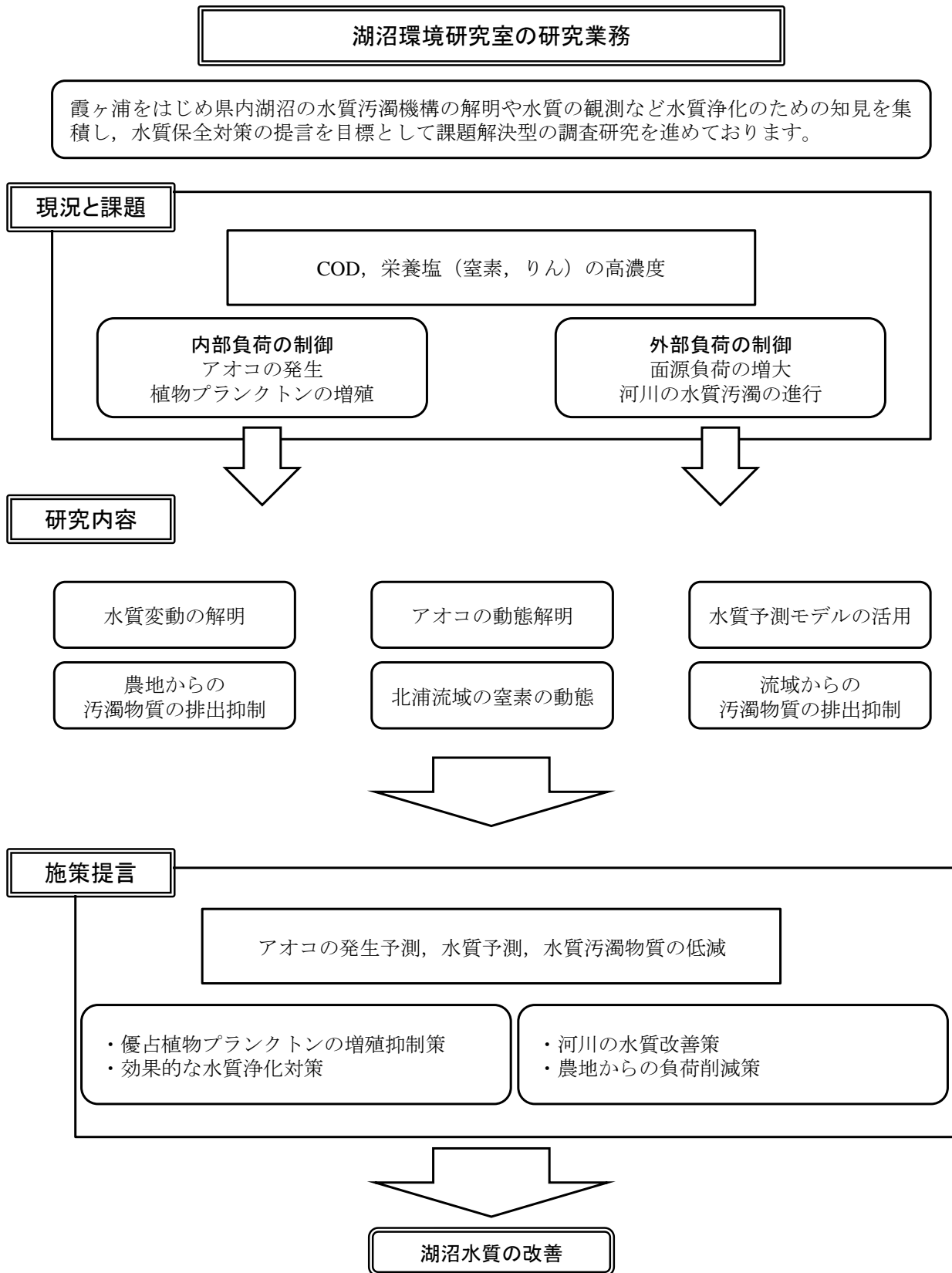
当センター外部研究員受入れ要領に基づき外部研究員を受け入れた。

筑波大学生命環境系 1名 平成27年5月13日～平成28年3月31日 湖沼環境研究室

2 調査研究事業

(1) 湖沼環境研究室の調査研究事業

【各事業の概要】



【各事業の概要】

ア 霞ヶ浦に関する調査研究事業

霞ヶ浦における水質汚濁機構を解明するための調査研究を行うとともに、霞ヶ浦における諸課題を解決するために以下の調査研究を実施した。

(ア) 水質変動の解明に関する調査研究

水質に影響を与える植物プランクトンや動物プランクトンの変動を調査し、水質との関連を解析した。

(イ) アオコの動態解明に関する調査研究

遺伝子を用いた測定法で *Microcystis* の現存量を調査し、霞ヶ浦湖底における平面分布や季節変動を明らかにした。

(ウ) 北浦流域の窒素の動態に関する調査研究

北浦流域における窒素の排出源について統計データの収集、整理を行った。

(エ) 水質予測モデルの活用による浄化対策効果の検証に関する調査研究

平成 26 年度の霞ヶ浦の水質変動の再現を行い、大雨が水質に与えた影響を検討した。

(オ) 流域からの汚濁物質の排出抑制に関する調査研究

公募により選定した浄化手法による河川水質の改善の検証を行った。また、小規模事業場の合併浄化槽からの排水の水質改善手法の検討を行った。

(カ) 農業環境負荷低減研究

レンコン田からの排出される水質や混合たい肥複合肥料を使用した水稲田からの水質の調査を行った。

(キ) 循環かんがいによる汚濁負荷流出抑制効果の検証

北浦流域の水田において循環かんがいによる汚濁物質排出抑制効果を検証した。

(ク) 湖水直接浄化実証施設の検証

湖水直接浄化施設（凝集磁気分離装置）の稼働による土浦港内の水質改善や効果的な運転法について検討した。

イ 涸沼に関する調査研究

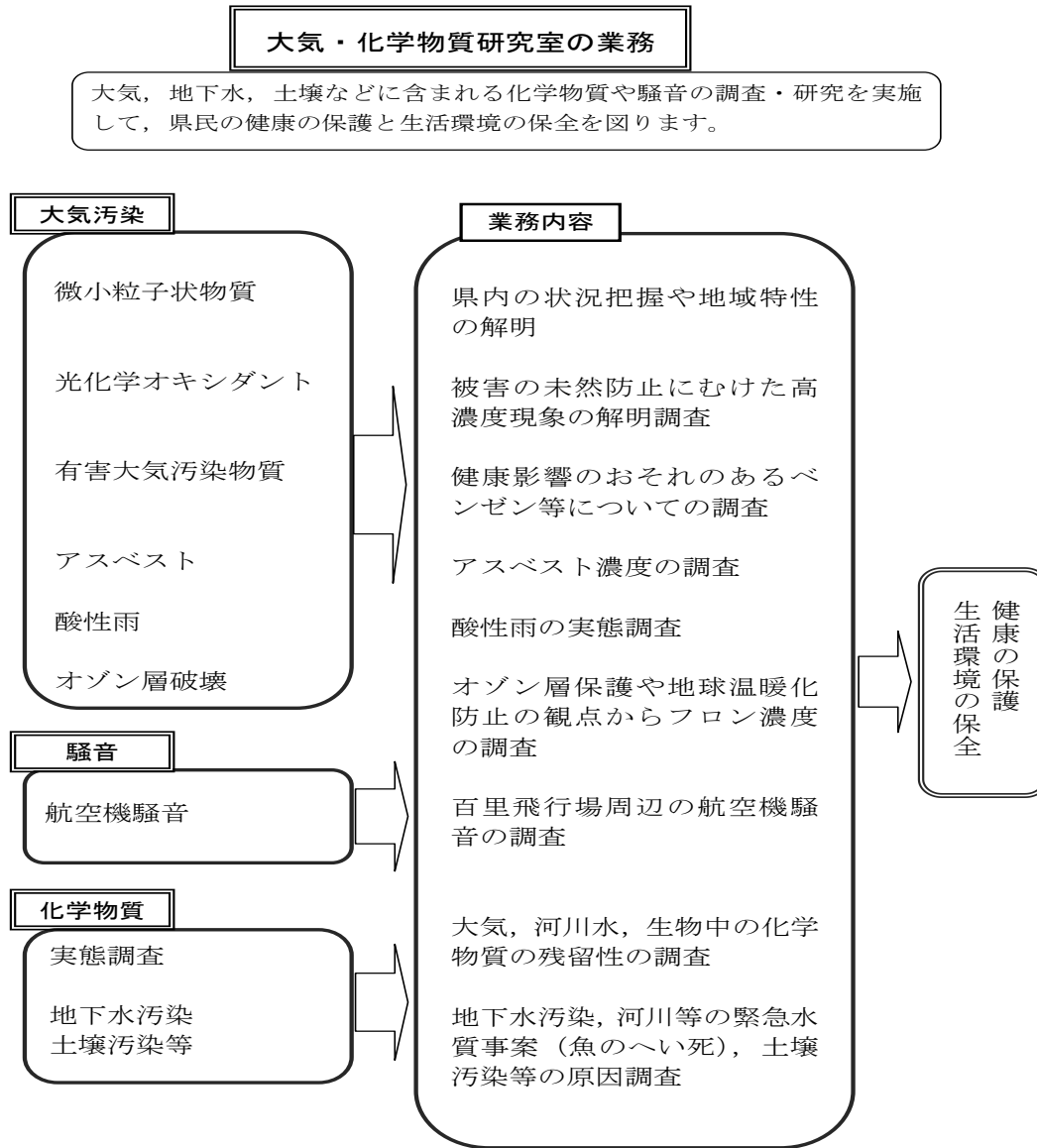
涸沼の水質が汚れる仕組みを解明するためには、継続的な調査が必要であり、月 1 回、湖内 8 地点と流入する 2 河川の水質を調査した（測定項目は、窒素やりん、COD など）。主な水質項目の年平均値（8 地点平均）は COD が 8.8 mg/L（H26 6.7 mg/L）、窒素が 1.8 mg/L（H26 1.7 mg/L）、りんが 0.12 mg/L（H25 0.082 mg/L）であった。平成 27 年度の水質は、前年度と比べて高値で推移した。

ウ 牛久沼に関する調査研究

牛久沼の水質が汚れる仕組みを解明するためには、継続的な調査が必要であり、月 1 回、湖内 8 地点で水質調査及び湖心での植物・動物プランクトン調査を実施した。主な水質項目の年平均値は、COD が 6.7 mg/L（H26 6.6 mg/L）、窒素が 1.5 mg/L（H26 1.7 mg/L）、りんが 0.073 mg/L（H26 0.069 mg/L）で、COD 及び窒素は横ばい、りんは上昇した。

(2) 大気・化学物質研究室の調査研究事業

【事業概要】



【各事業の概要】

(ア) 微小粒子状物質（PM2.5）に関する研究

PM2.5の県内における地域特性を明らかにするため、季節毎にその状況を調査した結果、平成27年度の質量濃度は夏季に高濃度となった日が多かった。成分調査結果に関しては、夏季には硫酸イオンの割合が、冬季には硝酸イオンや炭素成分の割合が増えることが確認できた。またPM2.5高濃度時は広範囲（関東全域等）に及ぶことも多く、他地域からの移流も含めた解析を行っていく必要があることが分かった。

(イ) 光化学オキシダントの高濃度現象に関する研究

光化学オキシダントは、県内全ての測定地点において環境基準の未達成が続いており、その高濃度要因の一つとして揮発性有機化合物がある。そこで、揮発性有機化合物が光化学オキシダント生成に寄与している割合を把握するための研究を行った。

(ウ) 有害大気汚染物質調査

継続的に摂取した場合、人の健康を損なうおそれのあると大気汚染防止法で定められている有害大気汚染物質について、国のモニタリング指針に基づきベンゼン等の 21 物質を調査した結果、全ての項目で環境基準等を達成しているなど平年並みであることを確認した。

(エ) 大気中のフロン濃度調査

オゾン層の保護や地球温暖化防止の観点から、オゾン層破壊物質で温室効果ガスである特定フロン 3 物質及び代替フロン等 8 物質について調査した結果、例年並みの濃度で推移し、全国と同程度であった。

(オ) 大気中のアスベスト(石綿)調査

一般環境における大気中のアスベスト繊維数濃度の調査結果、例年並みの濃度であり、全国と同程度のレベルであった。

(カ) 酸性雨の実態把握調査

県内における酸性雨の実態を把握するため、酸性の程度を表わす pH 等の調査を行った結果、pH 値は 5.07 と全国平均より少し高かったが、酸性雨の目安の値(5.6)よりは低く酸性の状態が続いている。

(キ) 百里飛行場周辺地域における航空機騒音実態調査

百里飛行場の航空機騒音について、環境基準の達成状況を把握するため、飛行場周辺の航空機騒音の調査を行った結果、飛行場に近い下吉影地区において環境基準は未達成であったが、他の地点では達成していた。

(ク) 化学物質環境実態調査

環境省が化学物質の環境、生物への残留状態を継続的に把握することを目的として実施している化学物質環境実態調査の委託を受け、県内の大気、河川水、魚類の化学物質の調査を実施した。その結果は、化学物質の環境安全性評価や環境汚染の未然防止に役立てられる。

(ケ) 水環境化学物質調査

県内の公共用水域 14 地点において、人の健康の保護に係る要監視項目及び水生生物の保全に係る要監視項目 31 物質、魚類(メダカ)に内分泌攪乱作用があるとされる 1 物質について実態を調査した結果、全ての地点で指針値を満たしていた。

(コ) 公害事案等処理対策調査

著しい河川水の汚染などの緊急水質事案、廃棄物の不法投棄、地下水汚染等について、検体を分析するなど、原因や原因者を特定する調査を関係行政機関と連携して実施した。

3 共同研究事業

大学や他の研究機関との共同研究を次のとおり実施した。

| 相手方 | 課 題 名 | 期間 | 内 容 |
|---|---|-------------|--|
| 筑波大学 | 霞ヶ浦における水質変動に関する研究 | H23～ | <ul style="list-style-type: none"> ・現地水質・底質の調査・分析（センター） ・水質予測モデルの構築（大学） |
| 茨城大学 | 霞ヶ浦における底生動物と底質環境に関する調査研究 | H27～ | <ul style="list-style-type: none"> ・底泥およびユスリカ幼虫の採取（センター・大学） ・ユスリカ幼虫の種組成の把握（大学） ・ユスリカ幼虫生息場の水質・底質環境の把握（センター） ・ユスリカ幼虫生息場の水質環境の把握（センター） ・ユスリカ幼虫の安定同位体比分析からの餌資源の推定（大学） |
| 国立環境研究所 | 干潟・浅場や藻場が里海里湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係（Ⅱ型） | H27～ H29 | <ul style="list-style-type: none"> ・藻場の生態系機能の解析（国環研） ・生物の生息環境修復の検討（センター外） ・藻場構成種の生態学的特性等の検討（センター外） |
| | PM2.5の短期的／長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明研究 | H25～ H27 | <ul style="list-style-type: none"> ・時間分解能を上げたPM2.5の成分分析（センター外） ・PM2.5広域汚染の解析（センター外） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・農研機構畜産草地研究所 ・県畜産センター ・グリーン&ウォーター | 畜産排水対策モデル事業（平成27年度簡易高度処理施設（MAP反応槽）による畜舎汚水中のりん・窒素除去回収に関する研究） | H27 | <ul style="list-style-type: none"> ・実証試験に対する技術的助言（畜草研） ・実証実験の実施（畜産センター） ・処理水の水質分析（センター） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・茨城大学 ・農業環境技術研究所 ・農研機構近畿中国四国農業研究センター | 銚田川流域における窒素の蓄積及び動態に関する調査研究 | H25～ H27 | <ul style="list-style-type: none"> ・流域土壌中の窒素（茨大） ・銚田川の負荷量変動機構（農環研，農研機構） ・窒素の流出負荷起源の解明（センター） |
| 県園芸研究所 | 農業環境負荷低減研究（レンコン田における石灰窒素の適正施用法の検討） | H27～ H29 | <ul style="list-style-type: none"> ・石灰窒素の施肥効果の把握（園研） ・ハス田からの流出負荷の把握（センター） |
| 県農業研究所 | 農業環境負荷低減研究（混合たい肥複合肥料を利用した水稲田栽培試験と環境負荷の解明） | H27～ H29 | <ul style="list-style-type: none"> ・混合たい肥複合肥料の施肥効果の検証（農研） ・水稲田からの流出負荷の把握（センター） |
| 全国環境研協議会酸性雨広域大気汚染調査研究部会 | 酸性雨全国調査 | H18～ | <ul style="list-style-type: none"> ・月毎の降雨成分の測定 ・調査研究部会へのデータ報告 |

| | | | |
|--|----------------------------|-------------|---|
| 関東地方大気 環境対策推 進連絡会浮 遊粒子状物 質調査会議 | 浮遊粒子状物質調査会議 | H17～ | <ul style="list-style-type: none"> ・統一期間における PM2.5 及びガス状成分の成分分析調査 ・関東地方における PM2.5 高濃度現象解析 |
| 鹿島下水道事 務所 | 下水処理場における化学物質 の挙動に関する研究 | H26～ H27 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境水中及び下水中の化学物質測定・解析 |

4 研究室一般公開

当センターの調査研究事業への理解や環境意識の向上のため、一般の方々への水質浄化に対する意識の醸成を図るイベント時に、研究室の一般公開を実施した。

| 公開日 | 一般公開研究室 |
|-----------------|-----------------------|
| 8月29日（センター夏まつり） | 大気機器分析室，生物実験室，自動分析機器室 |
| 2月20日（環境学習フェスタ） | 大気機器分析室，生物実験室，自動分析機器室 |